

栃事研会報



第 86 号 平成 28 年 2 月 29 日発行
栃木県公立小中学校事務職員研究協議会
編集発行人 廣田 則子

<主な内容>

- 副会長あいさつ・・・ p 1
- 研究大会・・・ p 2
- 研究大会、ステージⅢ研修、セミナー・・・ p 3
- セミナー、共同実施推進会議・・・ p 4

栃事研HP <http://tochijiken.org/>

「経営参画へ」

栃事研副会長 吉田 崇

総務省や厚労省などが試算した 2050 年の日本というデータがあります。34 年後、今年小学校に入学する子どもたちが 40 歳になる年です。このまま何の手も打たなければ、日本全国で人口が半分になってしまう地域が 6 割、全国の 2 割が無居住地域化すると予測され、労働人口は 4 割減少するとされています。

そうならないように施策が施されていくのかもしれませんが、大きな流れは簡単には止められないかも知れません。日本の人口が 1 億人の大台を割るのは確実視されていますし、学校についても、特別な場所を除けばほとんどの地区で学級減となり、統廃合の動きもじわりじわり来ています。

将来の日本がどうなるかは、予測データとしては出ていますが実際にその姿まで描くことはできません。ただ分かっていることは不確実で正解が分かりづらい社会だということです。だからこそこれからは、教室で知っている者が知らない子どもたちに正解を教えるという教育ではなく、目の前に誰も分からない難しい問題があっても、人と話をしながら挑戦をしてみる、そういった力、知識だけではなく課題解決力やコミュニケーション力といった能力を育てることが必要になってくる訳です。

栃事研では、学校事務の組織化と能力開発そして経営参画を、解決すべき 3 つの課題として取り組んできました。共同実施や研修の体系化にその進捗を見せ始めたいま、いよいよ組織の力と身に付けた個々の力量を活かし、学校においてこれまで以上に経営参画に力を注ぐ場面を迎えたと言えるでしょう。教育が変わろうとしているこの時こそ、これまで培ってきた力を存分に発揮する好機と言えるのではないのでしょうか。

学校は教育を実施する機関です。教育を実施する機関の職員である事務職員は、まぎれもなく教育を実施する職員なのですから、学習環境整備、学校業務改善、そして子どもの学びづくりなど、そのアプローチの仕方は様々でしょうが、事務職員としての専門性を活かして経営参画を果たし、学校課題解決を図っていくことが求められているのだと思います。

「とちぎ教育賞」受賞おめでとうございます



鹿沼市立さつきが丘小学校
横瀬 泰子 様

「とちぎ教育賞」を受賞するなんて「びっくりぼん」です。この受賞は、がんばってきたことへの褒美とこれからもがんばりなさいという励ましなのだと思います。目指す事務職員像に一步でも近づき、若い事務職員の方々に「あんな事務長になりたいな」と思ってもらえるようがんばりたいと思います。

佐野市立北中学校
梅澤 嘉 様

とちぎ教育賞の受賞にあたり、驚きと共に大変恐縮しております。今回受賞できたのも、これまで私を支えてくれ、ご指導して下さった仲間の事務職員の皆様のおかげだと心から感謝しております。これまで以上に学校事務・教育会のために微力ながら努力していきたいと思っております。

高根沢町立阿久津小学校
和田 利江 様

とちぎ教育賞受賞に際しましては、お祝いや花束をいただきありがとうございます。支えてくださった方、御指導くださった方に感謝しつつ、日々、自分のできることに取り組んでいければと考えています。最後に学校事務の職の発展と、学校事務職員の活躍により各学校が輝いていくことを楽しみにして結びとします。



平成27年度 事務研究大会

12月4日、教育会館に於いて、平成27年度栃木県公立小中学校事務研究大会が開催されました。

今年はサブテーマを「協働から広がる子どもの学び… 思いを形に！」とし、専門性を活かしつつ、様々な人の「思い」を形にし、学びの充実に積極的に参画する事務職員の在り方と役割、チームや組織で仕事をしていく協働の大切さと、そこから広がる子どもの学びについて考えました。

地区発表では、那須地区により、「温故知新 そして学校事務の未来につなぐ」ー那須の絆、フロンティアスピリット、人材育成支援ーを発表テーマとし、2部構成で行われました。

前半は那須地区や市町事務研の活動、これまでの研修、研究の概要と人材育成に関するアンケートやワークショップの内容、那須地区の事務職員の目指す姿、その姿に近づくために組織として何をすればよいかなど、人材育成支援について新たな取り組みについて報告を頂きました。

後半は、組織で取り組む人材育成支援を柱にパネルディスカッションが行われました。会場から他市の人材育成について活動内容を聞いたり、カードを使って会場全体の意見を聞いたり、世代交代に伴う知識や経験の引継ぎ、これからの人材育成支援の在り方について、会場全体で考える場となりました。

また、パネリストとして登壇して下さった西那須野中学校の菊池紀男校長先生からは、共同実施の充実や経営参画への期待など事務職員への温かで力強いエールをいただきました。



全体研究会Ⅰでは、「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務の実現に向けて」ー過去・現在そして未来へつなげる中期研究計画ーと題して、栃事研会長より説明がありました。栃事研の諸活動の指針であり、組織の全体活動計画である中期研究計画と、とちぎの教育づくりを積極的に推進する学校事務の基本的方向、目指すべき学校事務や事務職員像を示した「とちぎ学校事務ビジョン」について、これまでの活動の振り返りやこれからの方向性、ねらいや目的などについての情報を、会員の皆様と共有することができました。

参加者の方からは、学校経営に参画するために必要な知識の蓄積が大切だと感じた。各地区で多少の違いはあるが、共通した問題を抱えている。みんなで共通理解し、協力していこうという機会になった。などのご意見をいただきました。今後も栃事研の活動について皆様とともに考え、実践し、実現していきましょう。

全体研究会Ⅱでは、前橋工科大学 学生部長兼キャリアセンター長 教授 小林 清先生から「学校経営参画における大切な視点ーアクティブラーニングを通して新たな気づきの発見ー」と題し、講義・演習を行っていただきました。「チームとしての学校」論を切り口に、今後どのように学校経営が変わっていくのか。そして、私たち事務職員が「専門能力スタッフ」として求められるものはなにか、など詳しくお話をいただきました。また、これからの課題を解決するために、アイデンティティの探索やマネジメント持論の探索などの演習を通して学び、考えることが出来ました。

最後に、学校で働くものすべてが力を合わせて、子どもの生まれ育った環境に左右されず、すべての子どもたちが夢と希望を持って成長できる学校や社会を、実現して欲しいと小林先生よりメッセージをいただき、全体研究会Ⅱは終了しました。



参加者からは、学校経営参画への手立てが見つけれられた。さらにスキルアップを目指し、マネジメントを意識して仕事に取り組みたい。様々な職種の方との協働を通して、子どものために働きたい。今回学んだ事を、学校で活かしていきたい。などのご意見をいただきました。

今回の全体研究会で学んだ、「新たな気付き」や、「前に一步踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」、そして「自分の殻を飛び出す力」をぜひ実践に結びつけていただければと思います。



ステージⅢ (職務能力深化期) 学校組織マネジメント研修

平成27年10月2日 学校生協会館

採用10年目～19年目を対象に、「見える化から言語化へ～プレゼンテーション能力を生かした学校経営参画を考える～」をテーマに、ステージ別研修を行いました。

講義では、学校組織マネジメントや、学校経営参画について、課題解決に向けた企画・提案の必要性等を学びました。また、学校組織マネジメントにおける必要な能力のひとつとして「プレゼンテーション能力」があり、能力を身につけるためのポイントなどについて学びました。

その後のグループワークでは、実際の職員会議や打合せを想定し、提案を行っていただきました。各グループテーマを一つ設定し、講義で学んだポイントをもとにプレゼン資料を作成し提案を行いました。アイデアを出し合い試行錯誤しながら作り上げたプレゼンは、グラフや絵を用い視覚的に注目を集めたり、芝居を交えアピールしたりと熱の入ったものとなりました。聴き手は、各グループの良かったところを「goodカード」に、もっとこうすれば良くなるかもというところを「adviceカード」に書き、どのように提案が相手に伝わったのか振り返りを行いました。

受講者からは、「相手に分かりやすく伝えるためには自分が内容を理解する必要がある」「プレゼンまでのプロセスが重要である」「“一人の知恵” < “グループの知恵” を改めて実感した」「自分本位で要望することが多かったが、相手の話や立場を考え、相手に行動してもらおうところまで見通して伝える工夫を取り入れたい」など研修の感想をいただきました。学校経営を担うミドルリーダーとして、研修で得た知識や技能を学校現場で実践し、スキルを磨いていただければと思います。



第13回 析事研セミナー

平成28年1月15日 パルティ

今年度は、「教育活動やカリキュラムについて理解を深め学校経営に参画しよう！」ということで、日光市教育委員事務局会学校教育課長補佐兼教育指導係長 岡本 一穂氏を講師に迎えました。

参加者は、テーマが「教育活動やカリキュラムについて」ということで、若干、不安な気持ちで研修に参加したようでしたが、岡本先生は、さすが、中学校の先生！その話術に私たちは研修にどんどん引き込まれていきました。いつもとは違う脳をフル回転させながらの研修だったので、とても疲れた様子でしたが「新たな気づき」もたくさんあったようです。





セミナー参加者の声

・Howではなく、Whyを考える。なぜ、そういうことが起こるのかを考えれば、今までのものの見方、感じ方が変わって新しい改善策が見えてくるのかなと感じさせられた。(主事)

・改めて自分たちが教育の現場にいるんだと感ずることができた。そして、生徒に教育をするのは教員免許を持った先生だけではなく、大人の義務であると認識できた。(主事)

・自分の中のせまくて小さな「既知の既知」の中で仕事を進めていることに気づかされた。協働型で仕事をする楽しさを少し味わえた。(主任)

・長く同じ職をやっていくうちに、ひとつの考えしかできない頭になっているなとつくづく反省した。いろんな方面から物事を考えること、また、いろんな考えを持っている人を拒絶するのではなく、聞くことも必要だったと改めて考えさせられた。(事務長)

共同実施推進会議

2月4日(木) 学校生協会館にて共同実施推進会議を開催しました。県教委の吉田悟管理主事をお招きし、今年度は会議の目的を、①共同実施の全県実施に向けた課題を共有・整理し、その解決策を検討して実践を図る、②共同実施における組織のリーダー(事務長制の活用)の在り方やその役割の明確化を図る、として各支部より共同実施推進に向けた中心的な役割を担っている方に出席いただき会議を行いました。

とちぎ学校事務ビジョンの具体策であるチャレンジプランでは、29年度は共同実施の全県実施のスタートが位置づけられています。そこで今年度は、参加者全員で膝をつき合わせながら課題の共有を図り、当事者意識を持って解決策を検討し、次年度の実践につなげるための場として、座談会とグループ討議を設定しました。

◎座談会

座談会では、コーディネーターの野木第二中学校 大橋利昭事務長さんを中心に、各支部の今年度の推進状況をお話しいただきました。積極的に地教委へ働きかけ、28年度からは教育委員会規則として共同実施が制度化される支部がある一方、共同実施組織と事務研組織の役割の明確化が難しく、共同実施が思うように進展しない支部もあるなどの課題も浮き彫りになりました。「共同実施は仕事組織であり研究組織ではない。仕事である以上そこには責任がついてくる。」等、共同実施が推進されている支部からアドバイスや先進的な意見をいただき、自分の支部の課題を明確にすることができました。

◎グループ討議

グループ討議では、宇都宮市・鹿沼市・日光市・佐野市の方にアドバイザーとして加わっていただき、28年度以降の各支部の具体的な展望と取り組みについて、4グループに分かれて積極的な討議が行われました。

討議の中では、「これからの共同実施を維持・推進して行くためにはリーダーの役割がますます重要になってくる。」という意見も出されました。現在、共同実施の中心的な役割を担っている50代の事務職員の多くが退職期を迎えることから、次世代のリーダー育成が急務であることが大きな課題として提起されました。

◎まとめの会

最後にもう一度全体で協議を行い、28年度は全県実施に向けたさらなる実践を各支部で進めていくと共に、座談会やグループ討議で出されたリーダー研修の実施等、栃事研としても取り組んでいくことを確認し、今年度の推進会議を閉会しました。

★栃事研今後の予定★

平成28年度栃事研修修会並びに総会

平成28年5月24日(火) 県教育会館